1月20日 木曜日 19日発行
昭和30年西暦1955年
発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話（代表）京橋（56）8646
（直通）販売（〃）0437広告（〃）3995
編集局 港区芝田村町5の6
電話代表芝（43）1163番
東京振替貯金口座 170071番

THE NAIGAI TIMES
第2982号 （昭和24年6月27日第三種郵便物認可・昭和24年5月27日国鉄特別扱承認第232号）
（中華民国郵政認為第二類新聞・内政内簡証登報紙内台書字第0136号）

あすの暦 1月20日・木
旧暦 12月27日
月齢 25.8
日出 前 6.49
日入 後 4.55
月出 前 3.40
月入 前 1.24
満潮 前 4.20 後 1.50
干潮 前 9.05 後 9.40
（中潮）

天気予報
今晩 北の風晴、南部一時曇
明日 北西の風午後やゝ強く曇、気温は平年並み

日共の粛清白書

昨年中に1224人が槍玉に

半数が党規違反

激化する思想改造工作

日共は年頭、党機関紙『平和と独立のために』に〝党の統一と団結のために〟と題し、党内点検の強化を強調する論文を発表した昨年日共は党内の徹底的粛清を行い神山茂夫氏一派四十一名の除名をはじめ一、二二四名の大量粛清を行った、これは廿八年の四二八名にくらべ三倍近い数字で、日共が如何に党内の規律維持に手を焼いているかという証拠にもなろう、特に注目されるのは従来の表面的理由から一歩すゝめ党員の徹底的思想改造に重点がおかれていることである、以下は昨年暮治安当局が全国管下各署を総動員してまとめた日共の粛清白書である（S）

一昨年ソ連のベリヤ副首相粛清の余波を受け、日共内部でも伊藤律など最高幹部が槍玉にあがったが、それでもその数は五百名そこそこにすぎなかった、それに比し昨年中の驚異的な粛清ぶりは平和共存というお題目にくらべいさゝか合点がゆかないむきもあるが、平和共存はあくまで日共の合法面だけのいわば氷山の一角にすぎない、水面下のかくされた部分はいぜん謎のヴェールに包まれている、特に❶潜行七幹部や指名手配中の党員❷中核自衛隊を中心とする軍事組織❸ヒマラヤなど若干の非合法機関紙、などの防衛はますます厳重になる

ところでその粛清の内訳はスパイ二六八、神山一派の分派四一、その他の分派一一〇、党規律違反三〇、酒色や婦人によ[illegible]

伊藤律氏
神山茂夫氏
松本三益氏
椎名悦郎氏

[illegible]争のあらわれとみるむきもある、これに対し、神山氏の腹心で、同氏とともに除名された元アカハタ中国総支局長原田長司氏らは党内の不平分子や除名党員をかり集め神山氏をかついで党中央部に挑戦しようという気配をみせている

経済自立、綱紀粛正

首相 施政演説で強調せん

政府は廿日の臨時閣議で通常国会再開へき頭に行う首相の施政方針演説などを決定するが、根本官房長官は十九日施政方針演説の起草に着手した、首相演説の内容は各省大臣からの要望と民主党政調会からの草案を基礎に作成するこれについて同官房長官は十九日の午前の記者会見で次のように語った

一、首相の施政方針演説はきょう中に起草し廿日の閣議で決定する

一、演説の内容はいままで首相が発表した談話ならびに政府声明を骨子とするが、大体政治に対する態度、外交政策の大綱、内政問題については経済財政政策の根本方針と経済自立の諸政策ならびに綱紀粛正と国民道義の確立を強調したいと思っている

董大使、首相を訪問

董顕光中国大使は十九日午前十時小石川音羽の私邸に鳩山首相を訪問、約卅分にわたり会談しの会談は鳩山首相が内閣書[illegible]時代蔣介石総統と会見した話や董大使が故原敬首相との懐旧談など主として儀礼談であった

停戦斡旋せず

國連の乘出し期待

国共戦争と米の態度

【ワシントン十八日発ロイター共同】（ランキン記者）ダレス国務長官は十八日、定例記者会見で中共の外交、軍事両面での策動に関し慎重でひかえめな態[illegible]

[illegible]とも聞かないと述べ、国府はじめ西欧側の同意を得ない限りこんでも米国が自らそのような行為にでることはないと強調するとともに停戦への努力は平和的手段で問題を解決しようという米国の一般方針と一致していると述べた【ワシントン十八日発UP＝共同】

アジア援助は小規模

[illegible]

ラドフォード米統合参謀本部議長は十八日、アイゼンハワー大統領およびダレス国務長官と要談したこれは中共による一江山島占領に関し協議されたもよう

新しい芽 TFMC

トップ・モードの精

[illegible]うと、仲良しグループが集まって発表し合ったり、近着のパリやニューヨークのモード誌にヒタイを集め、遅れをとるまい、より新しいものをとり入れようの意欲に燃えている

○…涙をかくして炊事で荒れた手のヒラにクリームをすり込むモデル嬢たちの必死な姿は、シャンデリア輝くステージでは見られない、だが、この心掛けがあればこそショウに集まったミーハー嬢の内分泌腺を刺激し興奮のルツボに追い込み、ディオール調、Hラインのニュー・モードが芽生えるのである

【写真はカメラも照れるTFMC（東京ファッション・モデル・クラブ）のモデル嬢たち】

戦犯釈放促進

世話会が首相に要望

戦争受刑者世話会の理事長藤原銀次郎氏らは十九日午前鳩山首相を私邸に訪ね、巣鴨で服役中の戦争受刑者の釈放について努力されたい旨を申入れた、これに対し首相は『速かに解決したい、再開国会で行う施政演説にもこのことを入れたい』と答えた、同世話会理事の説明によると現在巣鴨で服役中の戦争受刑者は約六百六十名で米、英、濠、蘭の諸国関係者である

ジグザグコース

金を食う地方議員

ことしは、雪の解けぬ二月から選挙の声に明け暮れる。衆議院の派手な動きで目立たないが、衆議院選挙のあと知事選挙と市区町村議会議員の選挙がある。チャッカリ組、モグラ型、寄らば大樹型、一時的世話役型などそれぞれ趣向をこらし、四年間にわたる〝特権の座席〟獲得に余念がない。

ところでこの機会に地方議会議員の在り方を考えてみる必要があるようだ。先ず気がつくのはこれら議員サンが、赤字にあえぐ地方財政をより一層圧迫していることで、彼らは一人前の歳費のほか、議長ともなれば交際費、副議長、各委員長にはそれぞれ手当がつく。四年の任期が終るころともなれば自分たちの退職金をお手盛り予算で計上し、タンマリ蔵くという寸法だが、僅か四年間の任期で何万何十万という退職金は〝デフレどこ吹く〟なんてものじゃない。

例を東京都にとってみると都議会議員は百廿余人いる。一人の歳費が平均四万以上だから月に四百八十万、年五千七百六十万、任期四年で二億三千四十万かかる。また各区には平均四十人の区議会議員が都内で九百廿余人いて、一人の歳費が月平均三万以上で年に三億三千百廿万四年間で実に十三億二千四百八十万という莫大な経費がかかる。しかも都・区議ともに月平均四—五回ほど顔を出しただけで歳費が頂戴できるのだから、今どき豪勢なものではある。真剣に都政・区政を行う場合、四日や五日で可能なものかどうか、もし仮に可能としても現在通りの人員は不要である。このさい地方議員の定数を現在の三分の一程度に減らし歳費も月五、六千円ぐらいにすれば地方財政の一助にもなろうし、真に都・区政に取組む人たちばかりが出ることは大体間違いなく、まさに一挙両得ではあるまいか。

地方議員定数の大幅減少は一万田蔵相も考慮中だというが、是非とも実施してもらいたいものだ。（秦）

浅草の虫 (55)

浜本浩
栗林正幸 画

三馬鹿の唄（七）

神々はエロが好き—などといっても、ストリップショウの題名ではない。

手近かな例が、深川八幡に辰巳芸者、湯島天神に同じ名の花街、武骨な靖国神社にさえ富士見町と、たいがい神さまは、白粉臭い隣組が、町内に鎮座ましますのが、何よりの証拠である。

亀戸の天神もご多聞に漏れず、藤と太鼓橋で名高い、拝殿前の心字池に、粋な料亭の灯が映るくらいで、何処までが神聖な境内で何処からが生臭い三業地やら、ちょっと眼には、けじめのつきかねるたゞずまいである。

いずれにしても、病院にも見え、拝殿とは背中合わせに、会堂にも見える、白亜の洋館が、師走の朝日を麗かに浴びていた。二年越しで掘り当てた温泉の百人風呂である。

情の深い年増女の猛攻から、どうやら脱出した梧郎は、間もなく、そこの百人風呂に、のびのびと浮んでいた。

こゝでは、郊外電車で通ってくる、近県の客が多く、午後になれば、諸を洗うほど込み合うという話だが、午前も開場早々の十時前では、紅茶色の鉱泉を、なみなみとたたえた広い浴槽に、二、三人の客が、のんびりと温まっているばかりであった。

ふと気がつくと、立ち昇る湯けむりの中に、首までひたった中年の男が、折り畳んだ手拭を禿頭にのせたところまで、楽屋風呂の芝木典介に、そっくりであった。

感心して見ているうちに、ふと前夜の出来事が、梧郎の頭に浮んで来た。

しかし、支配人と部長が、知恵をしぼった、新春興行の配役を、梧郎の勝手な進言くらいで変[illegible]問題にもならぬ老優芝木や[illegible]の若い三人を、梧郎同様に[illegible]る筈は、恐らくなかろう。

それればかりか、せっかく[illegible]を蹴って、幹部の好意に裏[illegible]梧郎自身が、如何なる扱い[illegible]るかも、問題であった。

—ばかばかしい—

梧郎は、サッと立ちあが[illegible]煽りをくらった浴槽の湯が[illegible]と流し場に溢れ出した。

考えるだけが無駄な話だ[illegible]ては既に、彼等の間で決定[illegible]る筈である、と梧郎は気付[illegible]らだ。

梧郎は、得意のダイナを[illegible]みながら、からだを拭き、[illegible]て、悠々と浴場の二階へ上[illegible]った。

二階には、この浴場で終[illegible]湯治客のために、百畳の大[illegible]開放されていた。広間の正[illegible]マイクを備えた舞台が、[illegible]場者を待っていた。が、朝[illegible]から、得意の喉を披露する[illegible]れな声自慢もいそうにな[illegible]

梧郎は、廊下の売店で、[illegible]かの餡パン一袋と、温い[illegible]って、朝食に代えた。つい[illegible]計を見たら十時を四十分[illegible]いる。

『この時計は、あっていま[illegible]』

すると、鶯色のブラウス[illegible]った売店のおばさんは、[illegible]時計と見較べて、

『どうしたのかしら、十[illegible]てるわよ』

と、同僚の若い女に注[illegible]

梧郎は、慌しく階段を[illegible]て行った。しかし、その[illegible]劇場では、奇蹟のような[illegible]起っていたことは、知る[illegible]った。

粋人酔筆

壁演説

石黒敬七

『これより明治天皇の御製を奉読する、一同正座ッ！』と号令した。一同が驚いて座ると、彼は、おもむろに御製を一首読んではそれを説明してゆく。三首目あたりに来た時、突然彼が、場内の一点を指さして『無礼者ッ』と叫んだ。僕がその方を見ると一人の老人が大あくびをして、そのあくびがまだ終らないでいた。

それから、五分で終る筈の彼が、廿分間も一同を叱りつけた。閣下としてはそれで溜飲が下ったろうが、閣下が『終りッ』といって降壇した時は一人も手を叩く者はいなかった。

後で候補者のSに会ったところ『あ奴のお蔭で落選した。とんでもない応援弁士だった』と嘆いていた。『叱った村からとれた票はどのくらいあった』と訊くと、彼は憮然として『只の三票さ』と答えた。

東京株式仲値

□新株落△配当落（19日前場終値）

銘柄	値	銘柄	値	銘柄	値	銘柄	値
特定銘柄		日本曹	56	三菱化	121	カボン	53
東海上	306	旭電化	77	旭化成	288	三井物	173
郵船	—	三菱造	74	山陽パ	87	第一物	106
新三菱	88	三菱重	63	日本パ	82	白木屋	180
日清紡	275	石川重	88	国策パ	84	高島屋	86
味の素	295	精工	139	東北パ	95	日活	96
三越	295	東洋ベ	115	大東紡	78	松竹	209
平和不	394	三井造	99	商船	58	東宝	1370
		日立造	43	三井船	58	大映	185
三井金	98	浦賀	47	飯野海	50	日清粉	158
三菱鋼	87	日平	35	西武	—	日麦酒	165
日鋼	69	古河電	79	藤田興	210	朝麦酒	182
住友金	87	東芝	75	東京ガ	83	キリン	196
三菱鉱	50	三菱電	99	東電	435	宝酒造	87
古河鉱	70	日立製	79	日銀	2620	野田醤	373
同和鉱	102	小松製	68	東銀	87	日本粉	125
住友炭	66	日本光	166	三井銀	—	昭和産	115
三井山	66	東京光	—	富士銀	87	東洋醸	80
北海炭	61	キヤノ	166	日証金	100	合同酒	91
東邦亜	63	日軽金	167	大正海	105	三楽酒	79
日石	85	東洋紡	135	住友海	125	台糖	190
帝石	72	鐘紡	137	安田火	131	明糖	102
昭和石	83	大日紡	85	千代田	91	日水産	76
大協石	154	日東紡	67	鋼管	66	甜菜糖	152
東燃	117	片倉	42	日製鋼	70	大阪糖	141
三菱石	89	富士紡	102	八幡鉄	65	森永	267
日東化	71	呉羽紡	85	富士鉄	55	明菓	168
日産化	71	東邦レ	106	神戸鋼	66	王子紙	184
三井化	88	帝麻	68	日特鋼	138	十条紙	201
東合成	90	中繊	59	日金鋼	48	本州紙	87
信越化	72	帝人	123	日セメ	139	三菱紙	96
協和醗	108	東洋レ	153	小野田	85	北越紙	53
東高圧	99	三菱レ	121	磐城セ	275	三井不	837
昭電工	72	倉レ	76	横浜ゴ	191	三菱地	514
				旭硝子	147	三井倉	105
				富士写	177	澁沢倉	—
				小西六	113	東洋埠	215

市況 整理商状

減税三百五十億を傳えた卅年度予算大綱も、東シナ海の緊迫も格別材料とはならず、全般の市況は低調な小口整理売物が続いてジリ安をたどっている、特定株は見送られて動意なく東海上が小確り保ったほかはほとんど前日値に焦げ付いた、つれて雑株はビール三社が減配説からマバラの売物をあびて五円内外下押したのを中心に食品商事、低位機械の一部がジリジリ売られて小巾続落をたどるもの多く、全般は気重い場面であった、このあいだ山形に新油田発見を傳えた帝石がマバラの買に二円高と小緩ったのが円立った程度

△安い株＝日銀四十円、キリン八円、板硝子六円、愛知機、川崎車輌、火工品、住友商、東洋埠、凸版五円

内外抄

◇『両社の統一を実現して私の政治的使命を終りたいと思う』よい哉、河上委員長の言。

◇公認候補の顔ぶれ、社党でも札つきがザラ。『粛正』の歌を忘れたカナリヤ。

◇政府、五百億減税の構想を練る。一千億減税を謳う自由党の半額。野党との開きはこんなもの。

◇鳩山首相、映画委員会を設ける。政府宣伝用と早合点してはいかん。輸出映画奨励の思いつき。

◇ガダルカナル戦の対決演説会で苦戦させられた辻代議士『選挙戦は実戦よりツライ』

吉田朴司 選

選挙の寄留郷里ではヤミを食い 埼玉 酒井武雄
八幡神見れば貧乏神もいる 埼玉 高野光
鉢巻をしたスト決死隊めいている 港 瀬谷喬美
きんとんももう七草の客の跡 松戸 浅田のぶ孝
縁のないお偉ら方の賀状も来 三鷹 [illegible]
軍配に注意をされて勝名乗 北 蒔田[illegible]
【賞】羽根の音花瓣の音もよし 川崎 小宮せいじ

続 情炎の千代田城 (2)

岩崎栄
寺本忠雄画

女大老(二)

将軍綱吉の病状俄に悪化、すでに御臨終―という報らせが、宝永六年正月十日の未明に、江戸城西の丸の空気を、鋼のように緊張させた。

臥床を離れて鮮かに身支度を整えた絵島は、みごとに凛然とした風彩態度に豹変していた。情念に燃え狂う閨中の痴態は、この颯爽としたお年寄のどこにも、寸分の翳すらとどめてはいない。

世子家宣(甲府宰相綱豊)の天下が実現したのである。六代家宣将軍の大奥は、絵島が女大老として絶対の独断政治に任かされる時代となったのである。

新らしい朝だ。前将軍の亡くなった朝が、この女傑一代の豪華盛大な首途の朝なのだ。

五人の部屋子に送られ、錦の花緒、銀泊を置いた草履に、蹴取の裾を蹴り捌きながら、三のお部屋に出仕した。

三のお部屋は左近局で、媚を競い妍を争う家宣の愛妾十幾人のうち、最も君寵の深い寵玉なのだ。すでに家宣の胤を妊娠している。

絵島は将来、この左近の方について身を立てようと心がけている。咲き匂う花のような麗質の上に、この女性は、絵島ほどのものが見ていて、まことに聡明怜悧な頭脳の持主だった。

『なに?』

といって、家宣は左近を抱いていた腕を抜き、絡み合わせていた腿を外ずした。

左近はすぐさま起き上がって身支度をし、家宣にも着更えを促すのだったが、

『間違いではないか』

褥に座ったまゝ家宣は首を傾げ、

『たしかに御臨終であるか』

宿直の宮地という女中に、もう一度念を押さずにはいられなかった。腑に落ちないのだ。

将軍綱吉は旧臘十二月の中旬ごろから、麻疹に罹って養生していた。だからこの正月元旦は、世子として家宣が代りに、三家以下諸大名の年賀をうけた。しかし綱吉の病気はさしたることもなく、六日ごろから快方にむかい、九日には御全快の沙汰が出て、三家とそれから加州前田家とから、御祝いの献上品があり、十日はお床あげのお祝いというので、前の日からその支度が出来、三家、家門、諸大名には早朝から祝儀の総登城がある手筈になっている。

『ともかく』

家宣は何か不吉な疑惑を胸に、本丸へ駈けつけたのだが、すでに薨去のあとだった。

一応、表の部屋に行き、喪服に着更えながら、側用人の間部詮房と、政治顧問の新井勘解由(新井白石)を呼ばした。

二人ともすでに控えの間に伺候していたので、すぐに入って来た。

『勘解由! わしは今日、先ず何をどうしたらよいのか』

そういう家宣の眼を、白石は涼しいような微笑に迎えて、

『執政柳沢美濃守殿を、御霊前にお呼びなされませ』

『うむ。して?』

『柳沢殿には、御遺言と称し、従来の悪政をそのまゝに、今後とも取り行うよう談判これあることゝ存じまするが…』

『うむ、いかにも、さようであろうの』

『それを頭から悉く御粉砕、御却けあそばされるのでございます、ふだん、てまえがお耳に入れ置きましたる論議、学問、この際こそ縦横に御活用のときと存じ上げます』

『この際、御遺骸を前に致してか』

『はっ。絶好の時機と場合にござります』

運命は今日から、家宣を六代の将軍にしてくれたのである。

活気ついた女流浪曲陣

伊丹秀子 / 天津羽衣 / 吾妻乙女 / 二葉百合子

新春を迎えて浪曲界は例年になく活気づき、松の内七日間だけでも、虎造、浦太郎、鶯童、若衛、三門博、栄楽、秀月、菊衛、天竜三郎、月子、百合子、照子の古豪新進が揃って放送に出演し幸先のよいスタートを切ったが、この廿七日から三日間は明治座で恒例の新春浪曲大会を開催し、米若、虎造、梅鶯、雲、浦太郎、三門博、国十郎が熱演することになった、ここいらで浪曲界をいろどる女流浪曲陣の現勢を探ってみよう―

人氣は男性を凌ぐ
一席十万円の「七つの声」 天津、吾妻も大家の列へ

女流浪曲界の王座にいるのはなんといっても伊丹秀子で浪曲界のダーク・ホース永田貞雄と別れてから雲月の芸名を返上し、浪曲協会にも所属せず独自の立場で活躍しているが例の『七つの声』もいよいよさえ、一席の口演料がなんと十万円をこし男性陣もおよびもつかぬ豪勢さだ、天津羽衣も最近人気は増す一方で東映映画にも五、六本も出演するという秀子につぐ大物級、『御前会議』で売出した吾妻乙女もこのところ足踏み状態にあるが新作物に独自の味を持っているホープの一人、春日井おかめは早くからその美声をうたわれていたが最近は艶聞に追われて芸の精進を欠いているのは惜しまれるところだ

二葉百合子も六歳からこの道に育っただけに声、節ともに器用さはあるが、大家の列には今一歩というところ、一時は伊丹秀子に次ぐ大物と目された鈴木照子は不幸病魔のため活躍できず、再起を願うファンは相当多い

新進組はNHK浪曲道場で稽古

新進組では昨秋帝劇で幹部昇進披露をした梅鶯の娘春日井加寿子、吉田小奈良丸の娘朝霧照子、三門博門下の三門お染、浪曲コンクールで入賞した富士乃たか奴、東家一楽の娘五月初子などがあげられる、彼女らはNHKの浪曲道場で作家水野春三の指導により熱心に稽古しているが花の咲く日も遠い将来ではあるまい

多士済々の関西陣
歌謡曲や早替などを取入れる

富士月子

[illegible] …ものがあるようだ

劇映画放送 廿日から再開 NTV

NTVでは邦画五社の劇映画提供について映連の具体案作成が手間どり、加盟五社の考え方がまとまらないので個々に交渉した結果、新東宝、大映、東映三社と提供条件の原則的了解が成立、廿日、廿一日に新東宝作品『平手造酒』廿七日、廿八日に大映作品『馬喰一代』を放送することになり、十一月契約満了後ストップしていた邦画放送を二ヵ月ぶりに再開することになった

マルタ島攻略戦 (英・スイータ)

[illegible] …根拠地の一…第二次大戦…枢軸国側が…ア半島に…力を誇って、このマルタ島…作戦を行おうと狙っていた…闘を描いたもの、演出ブライアン・デスモンド・ハースト

▽…新たにこの部隊に…れた偵察将校(アレック・ギネス)が、偶然のことからシシリ…南下する独軍の貨物列車を撮影したところ、おびただしいグライダーがのせられていた、そこで独軍のマルタ攻略の意図が判るのだが、その頃のマルタ島は波状空襲のため物資は不足し戦力も極度に衰えている、こうした中でねばりぬく司令官(ジャック・ホーキンス)以下の英国軍人魂といったものが描きあげられる、その実写を使ったマルタ島空襲のシーンが迫力ある以外は、戦闘シーンは大変チャチなので戦争ものというよりも島の娘(ミュリエル・パヴロウ)と将校との恋が淡々と描かれているあたりに興味をひかれる、アレック・ギネスがいかにも人間味のにじんだ風貌で、所謂軍人臭さのないのが何か清々しい味を残しているようだ (静)

【写真はその一場面】

その観参!! ④

佐伯徹 ウカ・チャカ夫人(KR)の純ちゃん

明るい性格に人氣
もっと知りたいミーハーの氣持

「純ちゃんたらァ…」「なァーに、マーリィ」毎朝九時五分になると、ご亭主族を送り出した家庭の主婦たちの耳をくすぐるのがこのアプレご夫婦だ、純ちゃんこと大友純一君はチャッカリ一家の隣り組、年の頃なら廿六、七のシガないサラリーマンだ、若奥さんのマリさんは、チャッカリ夫人を上回るチャッカリやで、ご亭主純ちゃんを完全に尻の下に敷いている所謂カカア天下だが、イヤ味のない明るさが聴取者にも反映してなかなか二人とも人気がある

「いまのマリは後妻でしてネ、初代は寺島信子さんだったンです、寺島さんが『花のゆくえ』のヒロインをやるためにいまの浦川麗子さんに代ったんですが、とにかくラジオ東京開局以来の番組ですからネ、僕なんか他の番組に出ると、純ちゃんが出ているなんてよくいわれるんですヨ」ピッタリといってはこの好青年に対して失礼かも知れぬが、純ちゃんその人が出現したような佐伯徹はこういってニッコリと笑った

現在劇団『東芸』に所属、本名を大久保正といって卅一歳、名古屋出身で目黒の無線学校から軍隊へと二年以上もオペレーター(無線通信士)をやっていたという変り種『通信士と俳優というのは感覚が似てるんですネ、緻密な点やなんか…、名古屋の先輩には有島一郎さんがいます、中学生の頃から芸界に憧れていたんですネ、ムーランへ入ったのは十九年だったと思います』

「ムーランから森川信一座へ、劇団新風俗へ、再びムーランへ、東芸へと下積み生活も長かったが、民放の開局とともにようやく忙しくなった彼は、いまKRでは『狐侍一代記』『少年放浪記』LFで『日本意外史』『江戸三国誌』『銀蛇の窟』『ポッポちゃん』QRで『青い孔雀』『すずらん太郎』その他テレビ、地方各局と文字通り大活躍中である、『稲荷といってはなんですけど、やっぱり姿の見える、つまり動きの伴なう芝居をしたいですネ、テレビとか映画とかが結局それですが、直接反響のある舞台の味を知っているだけに欲が出るのかも知れませんね、純ちゃんの心構えとしてはもっともっといまのミーちゃんハーちゃんの気持ちを知らなければと痛感しています、喫茶店などで小耳をたてていていると、あの人たちの話題の飛躍にこっちのテンポが合わないんです、これではいけないと思いましたネ』意欲を燃やす純ちゃんの表情は明るい (は)

歌舞伎みたまま

軽妙な『赤い陣羽織』 歌舞伎座 吉・猿合同

『赤い陣羽織』の舞台面

☆…長期興行に勘三郎、幸四郎、歌右衛門が八面六臂の活躍ぶり、勘三郎が『助六曲輪菊』で久しぶりの『水入り』まで二時間十分の労働(?)を入念に仕上げ、歌右衛門(揚巻)のあでやかさ、幸四郎の門兵衛、中車の意休などでジックリ固め、訥升が白玉に抜てきされて気を吐く、木下順二作『赤い陣羽織』は百姓(幸四郎)の女房(歌右衛門)にいいよる色好みの代官(勘三郎)をこらしめて軽妙な笑いをまき起し、又五郎の手下、宗十郎の奥方などで歌舞伎コミックの一面を拓いている

☆…『沼津』では猿之助の平作が至極慎重で、幸四郎が重兵衛を丁寧にまとめ、『佐々木高綱』では猿之助の高綱、幕府への不満で出家する感情も駄々ッ子じみて浅く半四郎の小太郎、八百蔵の甲賀六郎も凡調、時蔵が『紅葉狩』と『重の井子別れ』で当代一の貫録を示してはいるが季節外れの感が強い

☆…三津五郎の『喜撰』は古陶器の感じで滋味深く、『浜の松風』は幸四郎の行平、此平の二役、歌右衛門の松風にからんで芝雀の村雨が可憐、ほかに勘弥(桜丸)段四郎(梅王)中車(松王)の『車引』賀津雄、染五郎、団子の十代による『石橋』がある (杏)

近く大挙してマニラへ
益田舞踊団やショウ団体

益田隆

芸能団の海外渡航が相次いでいる折柄、こんどは益田隆舞踊団、山中寿、小川卓爾らを中心とするショウ団体一行約四十名が、大挙してマニラに向う話が起っている

一行は益田、山中、小川のほか真田実、緑圭子、後藤良子、中西初枝、益田舞踊団、渋東ダンシングチームなどで、マニラの興行師から直接山中寿のところへ話が来たものといわれる

出発はビザ(入国査証)の下り次第廿五日頃と予想されているが、山中は『発表されてからまた期日が延びたとか何とかいわれるのがイヤなのでまだいいたくないんです、こういうものはこれまでの例からみても船や飛行機に乗ってからでないとハッキリしませんからネ、予定は二週間だそうですが…』と言葉を濁している

おしゃべり横丁

入学試験

この春は子供だけでなく夫の分まであるので、夜もオチオチ寝られません ―代議士の妻

トンコ・コンビの次回盤決る

コロムビアでは『鶴さん亀さん』を歌ってトンコ・コンビを復活した久保幸江、加藤雅夫の第二回吹込盤は『ほんとだね』(作詞野村俊夫、作曲万城目正)と決定した

催し

一九五五年日本映画紹介展 廿四日まで、日本橋白木屋五、七階ホールで邦画五社、民放三社協賛の下に開かれている、五階ホールでは日本映画史の資料のほか、邦画五社の本年度上半期のスチール写真の展示など、七階ホールでは廿四日まで連日正午から各社の映画鑑賞会および民放三社の公開録音が行われる

東響の都民コンサート

東京交響楽団では大衆向七十円の低料金で都民シンフォニーコンサートを廿八日(六時半)日比谷公会堂で開催す

都々逸 石井きんざ選

別れ切れない二人の朝に 通む時計がにくらしい 大阪・近藤鷹行

雪の景色を見ながら飲める 二人に楽しい食堂車 船橋・今井ちさと

柱時計の打つ音かぞえ 冷えたおつゆをガスにかけ 高崎・五十嵐源太郎

生き抜くつらさに相手がほしく 男五十で知る孤独 ◇墨田・良坊

待つ身になって少しはほしい 瞬の廣場で待つ寒さ 選者

はと笛

▽…NHK『歌のおばさん』松田トシが徳川夢声、石黒敬七などと"ヒロポン防止運動"に一役かって出たことがあった、といっても話は簡単"ヒロポンをうつのはやめて下さい"と一筆半紙に書いただけなんだが…

▽…これが印刷されて各地の目抜きの場所にペタペタはられたわけだ、さて、松田トシの一枚がペタリとはった場所が下谷はヒロポン部落といわれるA町だったからたまらない、以来隣町の松田家には眼つきの凄い押し売りやポン中毒らしい浮浪者がウロウロ、今度は彼女『ウロウロだけはやめてくださァい』

【写真は松田トシ】

盛り場通信

豪奢な別世界 赤坂見附『ラテンクオーター』

日本人が酒をのむところといえば怪しげな女のいる所がおおい。怪しげでなくても、とにかく『女ならでは夜のあけぬ国』と称してワイザツになるのが常態。そこへ行くとあちらはやはり洗練されている。ナイトクラブという社交場はその典型、サービスはすべてボーイ、したがって楽しみは男女連れの客同志。とにかく、これではじめて男女対等の遊びということになる。そういうナイトクラブの代表的なものにニューヨークやサンフランシスコのラテンクオーターがあるが、これをモデルに、名前もそのままの『ラテンクオーター』というナイトクラブが赤坂見附にある。このあたり高級自動車がばんらんする別天地だが『ラテンクオーター』もエキゾチックで上品な社交場で、銀座あたりのキャバレーで、職業婦人のわざとらしい媚笑にあきた通人なら、一度は行ってみる価値がある。豪奢なアメリカ映画そのままの雰囲気でゲーリー・クーパーやロバート・テイラーのような気持になることは間違いない。それではさぞ高かろうと思うのは貧乏人根性で、洋酒三杯で千円、ビールなら六二杯小一杯で千円という安値だ。専属バンドはフイリッピン一流のシーザー・ベラスコの楽団、スト・シンガーとして淡谷のり子、ビンボウ、ジミー繁田が歌っているのもすばらしく、客にも池部良、淡路恵子、藤田泰子など有名芸能人が多く、七時から夜中の一時半まで派手な雰囲気がつづいている。別室に『エルロボー・ルーム』というバーがあり、ここは女の子がサービスする。

くすぐられて健康 京浜川崎『ニュートルコ』

トルコ風呂というとすぐ艶笑譚を連想するのは助平。大体が健康と美容にいちばんいいものなのだ。東京ではかなり利用者も多いが、こんど川崎にもできた。京浜急行の川崎駅から三分の『川崎ニュートルコ』である。全部個室で東京温泉のような大衆浴場はないが、早大を出て日本鋼管に入った宮原選手が同僚といっしょにゼイ肉をとるため定期的に顔を出す。いや体を出す。マッサージ師が美人で親切テイネイとくるが変な野心をいだいてはいけない。それが助平根性。経営者のやり方がゆきとどいているのが気分がよく、それがムサレたりマッサージやらで生理的にも気持がよくなるからこんな健康な楽しみはない。

しゃれた気分の店 新宿末広亭筋向い『かねだ』

新宿東宝裏要通りの舶来居酒屋『かねだ』は、しゃれた店で気分がよくて値だんは安い。文化人や芸能人が愛好する店だが、この店、見知らぬ客と百年の友のように語りあうようになるという静かで和やかな雰囲気がただよっている。カクテルといえばマルチニ、マンハッタンとばかり思いこんでいるのは青い。『かねだ』のカクテルNO55という名品を一度味わってみるテがある。これが五〇円、彼女とふたりならその名もうれしいカクテル・ロマンスを試み、ロマンチックな気分になって百円、値だんばかり気にするのは筆者の貧乏性だが、トリス、ニッカが四〇円、ラム、ブランデー、ジン、ウォッカいずれも五〇円。

庶民の遊びはパチンコ 神田須田町 パチンコ「寿」

何だかんだと目の敵にされてもパチンコは庶民の遊びの王座をしめる。ほのかな射倖心とレジスタンスとのミックスした心理がわれわれをあの機械に吸いよせるらしい。近ごろ出さないという店が多いが、須田町交叉点万世橋寄りのさかさパチンコ『寿』くらいになるとマツヤ式代理店として名を売っているだけにそんなミミッチイことはない。数百の新台、キャバレーのような設備、暖房、換気、それに女の子のサービスがいいから、何時間パチリンコンとやっていても不健康ではない。まず息抜きには絶好の遊びというところ。